

編集後記

激動の「昭和」の歴史が幕を閉じて、今日で2日目。読者の皆様におかれてもさまざまな想いがあることでしょう。理学療法士および作業療法士法の制定も一時代前のこととなってしまいました。理学療法士のさらなる発展への努力が望まれます。新元号は「平成」。日本のみならず世界の平和に向かう日々であってほしいものです。

さて、高齢化社会となった現在、OPLLなどによる頸椎性脊髄症や頸椎への小外力で不全四肢麻痺となる老人が多くなっています。完全損傷の四肢麻痺と異なり、病態と回復過程が複雑なこの不全四肢麻痺を本号の特集に取り上げました。大橋氏には豊富な臨床経験を基に、不全四肢麻痺の病態と評価について詳述していただきました。吉成氏には具体的な理学療法プログラムと留意すべきポイントとを、高梨氏には作業療法士の視角から上肢機能の取り組みを述べていただきました。また椎野氏には症例を提示しつつ在宅ケア、家屋改造の配慮すべき点を論じていただき、在宅ケアと言えばCVA 中心であっただけにこれはおおいに参考となります。

いずれの論文も力作ばかりでしたが、

通読して感じることは不全四肢麻痺の的確な評価方法の必要性で、理学療法士の立場から取り組むべき課題のように思えます。

講座の2編は今回から各論に入ります。「科学としての理学療法」の「運動学と理学療法」の中で半田氏は運動療法の手技を科学的に分析する姿勢を強調しておられ、ぜひ熟読していただきたいものです。

林氏の論説にはたいへん意味深いものがあります。

新生となった本ジャーナルの最初の「原著」は浅賀氏の論文で、パーソナルコンピュータを活用して定量的評価となるようプログラミングしたことに意義があります。もう一本の「原著」浅井氏他の論文では、立位姿勢保持における足指の作用という興味深いテーマをまとめられています。

本誌がさらに充実するためにも読者の方々からの御投稿をお待ちしています。

今年から本誌の編集委員に仲間入りさせていただきましたが、微力ながら協力していききたいと思います。

(鶴見 隆正)

理学療法ジャーナル

(第23巻 第2号)

1989年2月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,350 円(配送料 60 円)

{ 年ぎめ予約購読料 15,360 円 }
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1989, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

●編集顧問●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテー
ションセンター総長

横 山 巖
七沢リハビリテーション
病院脳血管センター院長
(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦
神奈川県リハビリテーション
病院

上 田 敏
東京大学リハビリテー
ション部

鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春
協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 男

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

木 山 喬 博

工 藤 俊 輔

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 子

橋 元 隆

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

丸 山 仁 司

宮 本 省 三

山 下 隆 昭

米 田 睦 男

訂正とお詫び

146 ページ，編集後記の右段上から 6 行目「科学としての
理学療法」→「科学としての理学療法学」

以上，関係各位に御迷惑をおかけしました，訂正し，お
詫び申し上げます。
(本誌編集室)